

本資料は 2021 年 11 月 4 日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版（要旨）です

53 条 LR に基づく臨時発表

体制強化、簡素化および成長に向けた投資を主軸とするグループ戦略を発表

2021 年 11 月 4 日、チューリッヒ - **クレディ・スイスは、リスク管理を中核に据えつつ、体制の強化および簡素化、持続的成長に向けた投資を主軸とするグループ戦略を発表しました。**

クレディ・スイス・グループの取締役会は、戦略の包括的な評価を経て、グループの長期的戦略の方向性について全会一致で合意しました。この戦略は、慎重に練られた 3 カ年計画であり、長期的なビジョンと統合されたモデルをベースに、クレディ・スイスの事業全般にわたる持続的成長に投資すると同時に、リスク管理と、説明責任および責任の重要性に支えられた企業文化をその中核に据えています。取締役会はまた、本戦略の見直しに組織を適合させると共に、部門間の協調と経営陣による監督を強化するために、グローバル事業と地域別体制の導入も承認しました。

リスク管理と資本を強化し、リスクを軽減し、中核事業に対する投資を増加させるなど、この方向に向けた取り組みは既に始まっています。

向こう 3 年間にわたり、3 つの主要な柱によって、持続可能な成長と経済的利益の推進を目指しています。

- **中核事業の強化**：ウェルス・マネジメント部門に対して、2024 年までに最大 30 億スイス・フランにおよぶ資本を活用し、ウェルス・マネジメント部門、スイス・バンク部門およびアセット・マネジメント部門に配分されている資本の割合をインベストメント・バンク部門と比較して、2020 年の最大 1.5 倍から 2022 年には最大 2.0 倍とします。
- **事業モデルの簡素化**：グローバル事業と地域を明確なマトリクス組織とし、一元管理されたグローバルのウェルス・マネジメント部門、グローバルなインベストメント・バンク部門および集中管理されたテクノロジーおよびオペレーション機能が、他の施策と相まって構造的なコスト削減をもたらし、成長への投資の原資を生み出すと期待されます。
- **成長のための投資**：グローバルをリードするウェルス・マネジメント部門、アドバイザーおよびソリューションに注力するグローバルのインベストメント・バンク、スイスのユニバーサル・バンキング・フランチャイズ、さらに複数の専門分野を持つアセット・マネジャーの 4 部門全てにわたり、2022 年から 2024 年にかけて、投資額を年間約 10 億～15 億スイス・フラン段階的に増加させます。

アントニオ・オルタオソリオ取締役会会長は次のように述べています。「取締役会とエグゼクティブ・ボードは過去数カ月にわたり、今後の指針となる戦略を策定するため一体となって取り組んできました。本日発表した施策は、各分野をリードする事業と地域のフランチャイズを備えた、はるかに力強く、今以上に顧客中心の枠組みをもたらします。リスク管理が行動の中核に据えられることになり、説明責任と責任の重要性を強化する企業文化を育むことに貢献するでしょう。われわれは、BAUによるコスト削減を原資として、約30億スイス・フランの資本をウェルス・マネジメント事業に振り向け、加えてテクノロジーなどへの投資として2024年までの年間約10億~15億スイス・フランを投入し、総収入成長への投資としていきます。それによって、持続可能な成長を達成できると共に、リスクを大幅に軽減し、顧客、投資家、従業員および社会というわれわれにとっての全ての重要なステークホルダーに対する持続的価値を提供することが可能となるでしょう。クレディ・スイスは優れた顧客サービスと統合したアプローチによる165年に及ぶ歴史とともに、優れた従業員と事業運営の強みを基に体制が整いました。」

トーマス・ゴットシュタイングループ最高経営責任者（CEO）は次のように述べています。「われわれは今回の戦略見直しによって、既存の強みを足掛かりに前進すると共に、主要な戦略的業務分野の成長を加速させる、明確で説得力のある今後の方針を決定しました。われわれは一層無駄を削ぎ落とした銀行となり、利益変動を小さくし、事業を営む各市場に一段と注力していきます。ウェルス・マネジメントにおける世界のリーダーとしての立場を一層高める意欲をもって、よりフォーカスしキャピタルライト化したインベストメント・バンク部門と、スイス国内においては業界を主導する顧客中心主義の銀行、かつ複数の専門分野を持つアセット・マネジャーにおいて、競争優位性を持つ分野にさらに投資していきます。本日発表した施策によって、われわれの強みを活用し、リスク管理を徹底しつつ、ウェルス・マネジメント部門との連動性をさらに強めて、世界中の個人顧客、法人顧客および機関投資家顧客に対し当行のサービス全般を提供するために、より優位な立場に立てることを確信しています。」

財務目標

- インベストメント・バンク部門を再構築します。プライム・サービスからの撤退（インデックス・アクセスおよび APAC デルタ・ワンを除く）により、30 億米ドル以上の資本、または資本の最大 25% を削減する一方で、競争優位性が明らかな事業およびキャピタルライتناアドバイザー主導の事業、さらにはウェルス・マネジメント部門と連携する事業に投資します。
- ウェルス・マネジメント部門に対して 2024 年までに約 30 億スイス・フランの資本を追加で投資します。これは 25% の追加投資であり、経常収入を 2024 年までに 10 億スイス・フラン以上の増加を目指し、顧客事業の取引量を約 1 兆 6,000 億スイス・フランへ、運用資産を約 1 兆 1,000 億スイス・フランへ増やすことを目的としています。これは、2024 年までの、500 人規模の新規リレーションシップマネージャーの採用や、最大 60% 増のテクノロジーへの投資をはじめとした成長への投資によって支えられる見込みです。
- ウェルス・マネジメント部門、スイス・バンク部門およびアセット・マネジメント部門に配分される資本のインベストメント・バンク部門に対する割合を、2020 年の約 1.5 倍から 2022 年以降は約 2.0 倍にします。
- 2023 年からインベストメント・バンク部門の成長に資本を投資する一方、資本の額は引き続き、ウェルス・マネジメント部門、スイス・バンク部門およびアセット・マネジメント部門の合計の 50% とします。
- グループにおける 2024 年の有形自己資本利益率の目標を 10% 超、重要項目を除く調整後費用／収益比率を最大 70% とし、2024 年までの年間約 10 億～15 億スイス・フランの追加投資は構造的なコスト削減で賄うことを目指します。
- 2024 年のバーゼル 3 改革前のベースの CET1 比率として 14% 超、CET1 レバレッジ比率として約 4.5% を目指します。
- 2022 年に市場および経済情勢が許せば、株主に帰属する当期純利益をベースに、最大 25% の配当性向を目指します。

本資料はクレディ・スイス・グループが発表したメディアリリースの翻訳版（要旨）です。メディアリリースの正確な内容は、クレディ・スイス・グループの [ウェブサイト](#) に掲載されたオリジナル版をご参照ください。